

センターだより



みんな頑張れ!!

目次

- 新年を迎えて..... 1
- 「蛍の答礼」に向けて、大相撲力士の皆さんの表敬訪問..... 2
- 第43回大分国際車いすマラソン大会 3
- 国際福祉機器展に参加して..... 4
- 第29回ときめき作品展..... 5
- 着脱式電動アシストユニットの体験について 6
- リモートでの在宅訓練について..... 7～8
- 終了者の状況、別府重度障害者センターYouTubeチャンネル開設のお知らせ..... 9



新年を迎えて

別府重度障害者センター所長 下山 敬寛

新年明けましておめでとうございます。日頃から関係機関、地域の皆様から温かいご支援やご協力を賜り、心から感謝申し上げます。昨年の幕開けは元旦を襲った能登半島地震でしたが、能登半島地震から1年が経過した今でも、生活再建の見通しが立たない住民の方々がいることを聞かたびに本当に心が痛みます。また昨年は地震のあった能登半島をはじめ記録的豪雨も各地でありました。今年は災害のない1年になることを強く願いたいと思います。

さて昨年11月にオンデマンドで開催した「頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会」ですが1600名を超える多くの方々に参加頂きました。ありがとうございました。「つながる支援～安定した在宅生活を送るために～」をテーマに開催しましたが、参加者の皆さんからは関連する多くの質問も頂き、多くの方々が頸髄損傷者のリハビリテーションについて関心を持って頂いていることをあらためて実感致しました。また今回研修会で使用した動画は利用者やご家族、関係者の方々にもご協力頂き、よりリアルな内容をお届けできたと思っております。ご協力頂いた方々ありがとうございました。参加者の皆さんから頂いたアンケート結果については現在集計中ですが、次回のテーマや開催方法などの参考にしたいと思っております。このように別府重度障害者センターでは、引き続き研修会などをとおして「頸髄損傷者の支援の充実と普及」に向けて組織的に取り組んでいきたいと思っております。

今回のセンターだよりでは、昨年11月に行われた「大分国際車いすマラソン」「ときめき作品展」など地域で行われた行事やリモートによる在宅訓練(就労移行支援利用者)の報告、その他頸髄損傷者の方々に役立つ情報などを掲載しております。「ときめき作品展」では利用者の田邊さんが工芸の部門で見事「ときめき大賞」を受賞しました。田邊さんの受賞作品「猛虎魂」もぜひご覧ください。



「蛍の答礼」に向けて

支援課 主任生活支援専門職 有馬 昭郎

当センターでは昭和41年から毎年2回、竹田市立南部小学校と交流行事を行ってきています。コロナ禍前は例年、6月に「蛍の交歓会」として6年生の児童のみなさんが、たくさんの蛍のほか各学年の児童作品などのプレゼントを持って当センターを訪問され交流。また、11月には「蛍の答礼」として利用者代表と職員数名が南部小学校を訪問し交流を図ってきました。

2020年以降、新型コロナの影響で中止や内容の変更を余儀なくされていて、オンラインでの開催や動画でお互いの様子を紹介しあうなどして交流を続けています。

今年度の答礼行事についても、当センターが動画を作成し、南部小学校のみなさんに見ていただき、お便りをいただく予定です。当センターの動画は、利用者のTさんらが日ごろ取り組んでいる手織り訓練の中で、児童の皆さんにプレゼントする作品を制作する様子などを撮影、編集中心であり、令和7年1月に利用者代表と職員数名が南部小学校を訪問して届ける予定です。残念ながら、今回のセンターだよりでは、答礼行事の様子の紹介が間に合いませんが、X(旧Twitter)で情報発信する予定ですので、楽しみにしてください。

大相撲力士の皆さんの表敬訪問

庶務課 支援管理係 島本 健司

10月16日、別府市相撲道振興協議会の計らいで、武蔵川部屋の、徳之武蔵 龍大郎(とくのむさし りゅうたろう)さん、日向龍 新之介(ひなたりゅう しんのすけ)さん、別府市出身の中島 楓(なかじま かえで)さんが、利用者の皆さんの激励のため当センターを表敬訪問されました。訓練室やトールペイント・手織りの部屋をそれぞれ回って訓練に励む利用者の皆さんの様子を見学いたしました。その後、体育館で利用者の皆さんと一緒にボッチャを楽しみました。会場に集まった利用者・職員の皆さん全員が大いに盛り上がりました。(写真は体育館でのボッチャの様子)



第4 3回大分国際車いすマラソン大会

医務課 運動療法士長 木畑 聡

令和6年11月17日、大分市にて第4 3回大分国際車いすマラソン大会が開催されました。今年も昨年に引き続き、清水佑太さん(T51クラス)と濱田大星さん(T52クラス)の2名がハーフマラソンに出場しました。天候にも恵まれ、清水さんは1時間52分30秒、濱田さんは1時間37分05秒とお二人とも昨年の自己記録を大幅に更新することができました。ゴール後は昨年の歓喜とは異なり、少し放心状態のようにも見えました。それだけ力を出し切れたレースだったのではないかと思います。

大会後に清水さんに感想をうかがったところ、「課題となっていた坂は気持ちをリラックスして登ったら少し楽に感じた。もう少し平均速度を上げて記録を縮めたい」と来年以降を見据えたコメントでした。濱田さんはセンター終了後も地域で車いすマラソンを続けたい意向もあり、ゴール後は地域の支援者の方と情報交換ができたようです。終了後もスポーツを継続するには、まわりの環境づくりが重要です。濱田さんも車いすマラソンが続けられるような環境が整うことを願うばかりです。

今回の大会に向けては、もう1名チャレンジを続けた方がいます。熱心に練習に取り組み十分な力をつけて万全の準備が整いつつあったのですが、直前の体調不良でスタートラインに着くことができませんでした。本当に残念でした。57歳での新たなチャレンジかつ真摯な取り組みは、関わった私たちの心に強い印象を残しました。

さいごに、コロナ禍で2020年から参加を見送っていたOBが今大会では戻ってきました。11名の参加があり10名が完走しています。また、来年も元気に大会でお会いしましょう。



国際福祉機器展に参加して

医務課 介護福祉士 足立 友里

令和6年10月2～4日に東京ビックサイトで開催された第51回国際福祉機器展&フォーラムに参加してきました。国際福祉機器展とはハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した介護ロボット・福祉車両まで世界の福祉機器を一堂に集めたアジア最大規模の国際展示会で、多くの来場者で賑わっていました。

それぞれのブースでは製品のデモンストレーションや詳細な説明が行われ参加者はその場で製品を体験することができました。その中でも特に印象に残ったのが移乗に関する製品です。介護部門では今年度からノーリフティングケアへの取組みを部門目標としており、日常業務の身近なリスクや、身体について不安のある業務の課題を集約し対策を検討し、問題解決に向けて話し合っています。その目標に活用できる介護・看護用アシストスーツや、手動式介護リフトなど、開発された企業の方と直接話しながらデモンストレーションを行うことで機器をより理解することができました。これらの機器を活用し少しでも現場の負担を軽くしながら、安全・安楽な介助を提供できるようにしていきたいと感じました。

その他にもAI技術が搭載されたスマート機器や生活を手助けする補助犬等も増えており、時代の進化とともに、上手に活用することで安心して在宅生活が送れる環境が整備できるように感じました。それぞれのブースを回ることによって現在の福祉機器の進化や多様化を実感することができました。

福祉機器展に参加した体験を通じて、福祉機器に関する理解が深まると同時に、企業の方や多職種の方とも情報交換ができ、最新の介護のトレンドなども学ぶことができました。予算の関係で全ての福祉機器を導入することは難しいですが、少しでも導入することでより快適に安全・安楽な介助を提供できるようにしていきたいと思います。展示会で得た知識や交流を生かし、より良い福祉機器の情報やサービスの提供ができるようにしていきたいです。



第29回ときめき作品展

支援課 生活訓練専門職 水谷 彰

10月30日から11月10日にかけて大分県立美術館1階アトリウムプラザにおいて「第29回ときめき作品展」が開催されました。社会参加訓練では、平成14年度の初回開催から毎年出展しており、今年も10名の利用者の手織り・トールペイントの作品を出展しています。

出展に至っては、締め切りに間に合わせようと週末の時間なども利用して制作に取り組んで仕上げた作品もあります。どの作品も、利用者が思うように動かない腕で、少しずつ少しずつ、1か月、2か月と多くの時間をかけて仕上げたものです。自分の想いや昔の思い出をテーマにした作品となっています。

そんな中、今回は98作品の出展があった工芸部門において手織り作品の「猛虎魂」がときめき大賞を受賞しました。ときめき大賞とは、開催期間中に来場した方々にアンケート調査を行い、絵画・工芸・写真・書・陶芸・合作の部門ごとに感動した作品を選んでいただき、部門ごとに最も投票の多かった作品に与えられる賞です。

受賞した利用者の田邊恭鷹さんは「猛虎魂」の続編であるキャップの製作にも取り組んでおり、授賞式では受賞作品である「猛虎魂」のシャツと続編で制作したキャップを一緒に身にまわって臨みますと張り切っていました。

開催2日目の10月31日には、出展した利用者の方々を中心に県立美術館まで作品展の鑑賞にも行きました。みなさん、自分たちの作品だけではなく他の作品にも興味津々に見入っておられ、今後の制作意欲向上にも繋がっています。

作品を制作された皆さん、お疲れ様でした。引き続き次回の作品展出展に向けてステップアップを図っていきましょう。今後もすばらしい作品を制作されることを期待しています。



実際の授賞式の様子



ときめき大賞受賞作品「猛虎魂」

着脱式電動アシストユニットの体験について

医務課 理学療法士 高木 龍
河野 和美

当センターの利用者の多くは頸髄損傷者であり、上肢の筋力低下や運動・感覚麻痺といった機能障害があります。それ故、手動車椅子操作において屋内操作は自身で操作が行えるものの、屋外操作は路面の形状や起伏等から操作自体が困難、または疲労により長時間の操作は難しいといった声がよく聞かれます。そのため、生活全般において切替式やアシスト式の電動車椅子を利用される方も多くいらっしゃいます。

近年では手動車椅子用の着脱式電動アシストユニットが複数社から発売されており、利用者の関心度も高いことから、今回スマートドライブSE(ペルモビール社販売、写真左)とE-KOアシストドライブ(FREE Bionics社販売、写真右)の2種類の着脱式の電動アシストユニットの体験を行いました。

前者はダイヤル式のスイッチで電源の入/切、ダイヤルで出力調整することでアシスト力を変化させスピードを変更していく仕様です。場面や路面によって出力を微細に調節することが可能です。後者は押しボタン式のスイッチで3種類の速度モードと坂道登攀モードを選択し、2、3回ハンドリムを操作すると車椅子を漕ぎだす力を感知しアシストが開始、選択した速度を維持しながら走行し、中央のボタンでアシスト終了するという仕様です。両者とも特殊な車椅子を除いてはあらゆるタイプの手動車椅子に装着でき、アタッチメントを車椅子にあらかじめ装備しておくことで必要時に素早く装着が可能だとの説明がありました。体験者からは、「自分が漕ぐよりも楽に進むことができた」「坂道を上るのがスムーズだった」と良好な使用感を実感できた半面、「ダイヤルのスイッチ操作に慣れがいる」「電磁ブレーキがついていないため、走行中の停止操作が難しい」「自身のブレーキ能力だと、速い速度モードだと車椅子を制御できない」等の実際の使用についての課題点も挙げられました。

今後も様々な商品が開発されていくことと思われますが、商品の機能だけでなく、個々人の障害や生活によって異なる操作性や安全性についても当事者と一緒に体験し検証、検討する機会を多く持ちながら支援に役立てていきたいと思います。



スマートドライブSE



E-KOアシストドライブ

リモートでの在宅訓練について

支援課 主任就労支援専門職 中山 修司

『今の生活スタイルやリズムを崩さずに、空き時間を利用して仕事をしたい』という方に向けて、当センターの就労移行支援では、リモートでの在宅訓練も行っています。現在ご利用中の訪問看護やヘルパーといった、サービス利用の時間を除いた空き時間に訓練を行うことで、今の生活リズムを崩さずに、無理なく作業耐性をつけて就労リズムを作りやすいのが魅力です。今回は、具体的な支援内容などについて、実際に就職が決まった方、現在利用中の方の状況を通じてご紹介します。

Aさん

【主な訓練・支援内容】

訓練時間は、1回あたり2時間を週に3回行うところから開始し、半年が経過した時点で1回の訓練時間を3時間に増やしました。オンラインで課題を行いながら、WordやExcelの基本機能を習得し、実務的なレベルまで到達しました。また、タイピング練習、学力向上に向けた学習、データ入力といった訓練も継続して行いました。

【具体的な就職活動】

就職活動については、月に一度の訪問のタイミングで、ハローワークや就業・生活支援センターへの登録を行い、求人情報の収集をAさんが自身で進められるように支援を行う一方で、履歴書や職務経歴書、自己紹介状の作成支援といったことを行いました。また、就職面接に向けて、想定問答を踏まえて自身の言葉で答えられるように練習し、仕上げに模擬面接も行いました。このときには、普段接することのないセンター幹部職員が面接者となり、Aさんも一定の緊張感を持って臨みました。



〈オンライン模擬面接風景〉

【地域の支援者への引き継ぎ】

就職を開始した直後にAさんのご自宅を訪問しました。その際に、地域の支援者の方々（相談支援事業所、訪問看護、訪問介護の各担当者）にも集まってもらい、Aさんや職場の担当者も交えて顔合わせも兼ねた会議を行いました。Aさんの生活状況やサポート体制を会社の方にも知ってもらう一方で、支援者側もAさんがどんな仕事をしているのか、会社ではどのようなフォロー体制があるのかといったことを知る機会となりました。さらに就業・生活支援センターにも、仕事に関するフォローを依頼して、Aさんが安定して長く働き続けられる体制を整えています。

Bさん

【主な訓練・支援内容】

訓練時間は1回あたり2時間を週に2回行うところから開始し、今では1回当たりの訓練時間を2.5時間、かつ週3回に増やしています。Word、Excelの基本課題を終了し、ビジネス文書を作成するWordやExcelの習熟課題を実施しています。

【具体的な就職活動】

Aさんと同様に、定期訪問時にハローワーク等への登録を行いました。また、履歴書や職務経歴書の作成支援も行っています。



〈職務経歴書作成ポイントの説明風景〉

Bさんは当初、通勤有りの就職も考えておられましたが、訓練を行う中でご自身に合った働き方を改めて考えた結果、在宅就労で就職活動を行うこととなりました。Bさんが勤務を希望する時間帯を踏まえて求人情報が収集できるよう、助言等を行っています。ハローワークへの問い合わせはご本人が行うなど、Bさんが主体性をもって就職活動できるようにサポートを行っています。

【利用の感想】

Bさんに利用の感想を伺いました。

在宅生活を開始して生活リズムがある程度整ってきたら、毎日の暮らしが単調に感じるようになりました。また、その時期に褥瘡の悪化もあって外に出ることもなく、閉じこもりがちでした。そういったことを解消したくて、就労移行支援の利用を始めました。

これまでは自由な時間が多かったのですが、訓練があるのでそれ以外の時間で用事をしなければいけないと感じるようになるなど、日々の生活にメリハリが出てきたように感じています。いずれは、週に5日、1日あたり5時間で働ければと考えています。

まとめ

在宅就労が一般的になり、昨今の時短勤務というトレンドの後押しも受け、より多くの頸損者の方が地域の支援者のサポートを受けながら、在宅生活で整えた生活リズムを崩すことなく、就労することが可能となってきました。当センターでは、短時間で訓練を行いながら、少しずつ訓練時間数を増やして、本人が希望する就労スタイルと一緒に考えていきます。また、安定して長く働くために、地域の支援者と連携してサポート体制も確立します。

リモート訓練を行うにあたり、月に1度の定期訪問が義務づけられているため、センターから定期的に訪問できる距離にお住まいの方という限定がついてしまいますが、興味のある方はぜひご相談下さい。

終了者の状況

(令和6年7月1日～令和6年12月31日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	復職	就労移行支援	就労支援施設・能開校	他施設	進学復学	その他	計
人数	2	1	0	1	2	0	1	0	0	7
比率(%)	29	14	0	14	29	0	14	0	0	100

別府重度障害者センターYouTubeチャンネル開設のお知らせ

別府重度障害者センターについて、分かりやすくご説明するための動画を作成しました。
ぜひ、ご覧ください！



X (旧Twitter) もはじめました。
イベントやお役立ち情報を配信中！

🔍 別府重度



役立つ情報満載！
HPもご覧下さい

別府重度

🔍 検索

<http://www.rehab.go.jp/beppu/>



電話 (0977) 21-0182 (利用相談) FAX (0977) 21-2794